



BEPPU UNIVERSITY

令和元年度

# 卒業生アンケート調査結果報告書

令和2年3月1日

別府大学

## 2019年度 卒業生アンケート

はじめに

平成30年度にアセスメント・ポリシーの一環として、別府大学教育への「卒業生調査による『卒後評価』」を把握するため、聴き取りによる卒業生アンケートを実施し、その結果をホームページ上に公開しています。

昨年に続いて2回目となる令和元年度の卒業生アンケートは調査対象を過去5年間の卒業生に拡大し、2014年度から2018年度までの卒業生を対象に実施いたしました。

その結果、依頼に対して60件の回答が得られました。今回の調査は、学科ごとのDP達成度などを測るには十分な標本数はなりませんでしたが、別府大学全体の傾向を知る上では大変参考になる結果が出たと考えています。忙しい中、アンケートにご協力いただいた卒業生の皆様には、感謝申し上げます。

令和元年度からは、さらにアセスメント・ポリシーに基づく「地元社会・産業界からの『外部評価』」として、卒業生の就職先での卒業生に対する評価を把握するため、過去5年間の卒業生の就職先にアンケートを実施しました。その結果、依頼に対して150件の回答が得られました。今回の調査は、就職した学生の学部・学科を問わずに行っているため、学科ごとのDP達成度を測ることはできませんでしたが、この調査もまた別府大学全体の傾向を知る上では大変参考になる結果が出たと考えています。忙しい中、アンケートにご協力いただいた企業・団体の関係者に感謝申し上げます。今後この結果を教育改善に活用し、高等教育機関である大学の教育の質保証に繋げていく所存です

### 卒業生アンケート実施目的

大学におけるカリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーの整合性を検討するとともに、社会へ出る卒業生に必要な社会人力と、専門課程での学びを結び、大学の教育の成果を測定するとともに、今後必要となるプログラム開発に資する目的で本調査を実施する。」

#### 1. アンケート実施方法

2019年度の卒業生アンケートは、2014年度～2018年度の5年間の卒業生、1,861名を対象として実施した。

卒業生アンケートへの回答依頼は、回答依頼文書の郵送により実施した。

アンケートの実施は令和元年9月7日～9月25日として、インターネット上に設置したアンケートへの回答により求めた。

## 2. 結果

総回答数 62 件の回答のうち、卒業年度や学科名の入力のない 2 件を外した 60 件を分析の対象とした。

60 件の内訳は 2018 年度卒業生 42 名、2017 年度卒業生 17 名、2016 年度卒業生 1 名、2015 年度、2014 年度の卒業性の回答は 0 件であった（図 1）。

また 6 学科の各卒業年度における回答数を表 1 に示した。

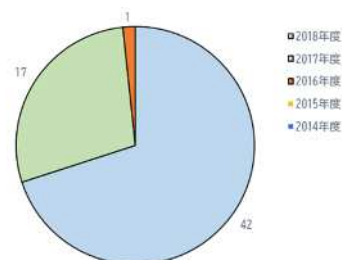


図1. 回答における卒業年度の内訳

	2018年度	2017年度	2016年度	2015年度	2014年度
国際言語・文化学科	8	2	0	0	0
史学・文化財学科	7	7	0	0	0
人間関係学科	8	2	0	0	0
食物栄養学科	6	2	1	0	0
発酵食品学科	4	1	0	0	0
国際経営学科	9	3	0	0	0

表1. 6学科における卒業年度別回答者数

「1. あなたは別府大学で学んだことに満足していますか」の問いに対する学科別の回答比率を集計し、図 2 に示した。学科における学びの満足度ではおおむねすべての学科で、普通まででとどまる傾向があったが、国際言語・文化学科、食物栄養学科、国際経営学科においてわずかながら満足できていないとする回答が見られた。大変満足している、満足しているまでの比率では、人間関係学科、次いで発酵食品学科、史学・文化財学科、食物栄養学科の順となった。

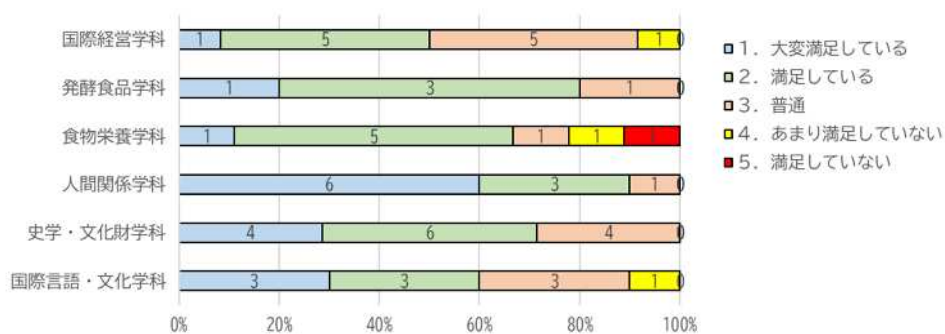


図2. 「1. あなたは別府大学で学んだことに満足していますか」に対する学科別回答比率

「2. 別府大学で学んだどのようなところが良かったですか（複数回答可）」の問いについて、複数回答で得られた項目を、各学科で集計した結果を図 3 に示した。

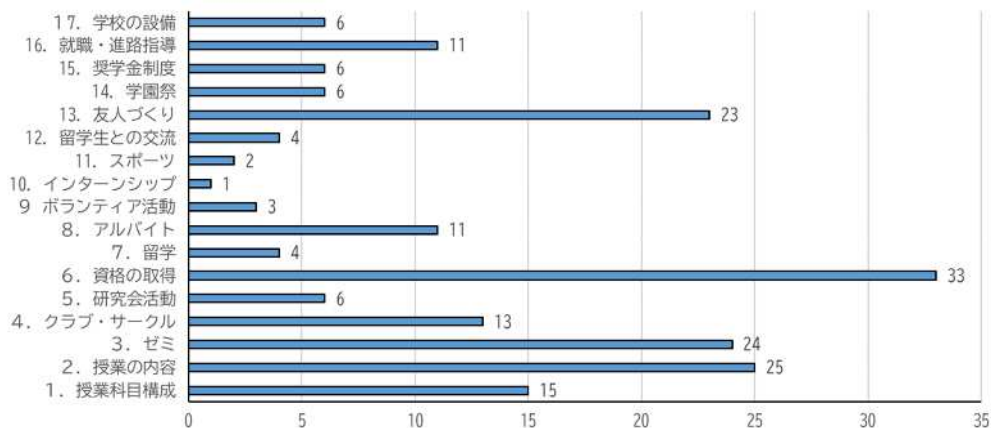


図3. 「2. 別府大学で学んだどのようなところが良かったですか(複数回答可)」の全体集計結果

卒業生の選択した別府大学で学んでよかったところとして、資格の取得が特に多くの卒業生からの選択項目となった。またそれについて、授業の内容やゼミなどが選ばれ、次には友人作りが選ばれた。自由回答では、県内、自分とじっくり向き合う事ができたが挙げられた。

さらに学科別に集計をすると、学科ごとに特徴ある回答が得られた(図4)。国際言語・文化学科では、授業内容、資格取得、友人作りなどを中心として多様な条件の選択が見られた。史学・文化財学科では授業の内容、資格の取得などを中心とする傾向、人間関係学科ではゼミ、授業科目構成、授業の内容など、食物栄養学科では資格の取得に特徴がみられた。発酵食品学科では総回答者数が少ないこともあるが、全体としてこの質問に対する回答選択数が少ない傾向が見られた。国際経営学科では圧倒的にゼミという項目が挙がり、次いで資格の取得、友人作りとそれぞれの学科における特徴が示された。

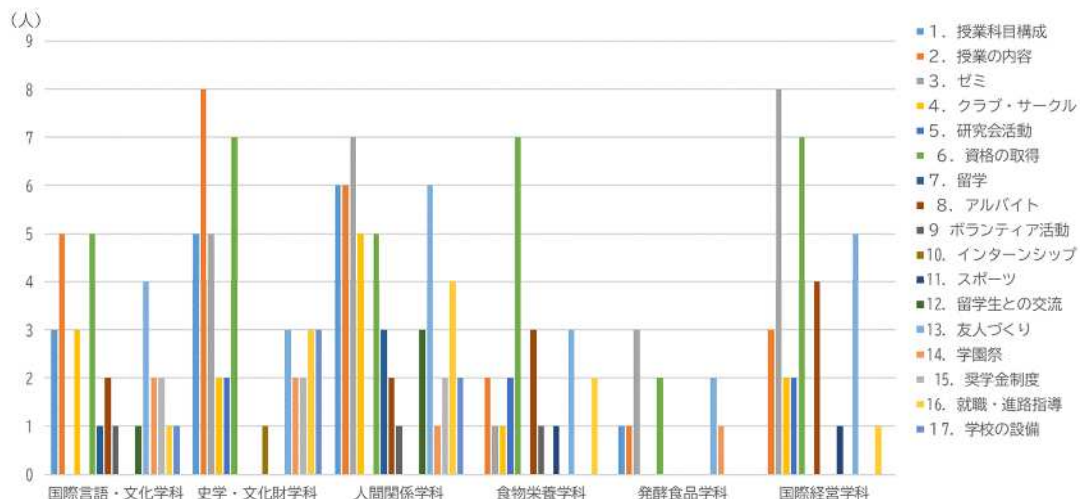


図4. 「2. 別府大学で学んだどのようなところが良かったですか(複数回答可)」の学科別集計結果

「3. あなたは在学中にどのような知識・能力が向上したと思いますか（複数回答可）」の問いについて、複数回答で得られた項目を、全体集計した結果を図5に示した。

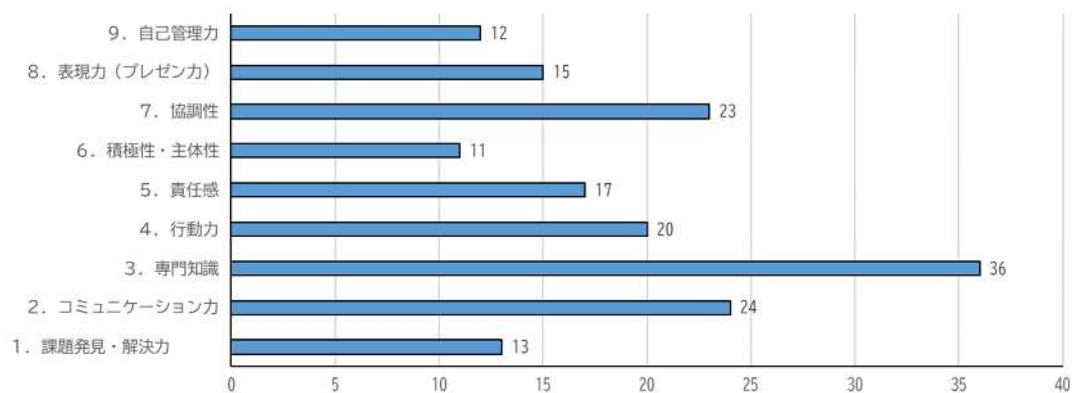


図5「3. あなたは在学中にどのような知識・能力が向上したと思いますか（複数回答可）」の全体集計結果

卒業生の多くは大学の学びにおいて、専門知識に関する知識・能力の向上を認識しているという結果が示された。さらにコミュニケーション能力や協調性といった集団における行動様式の上昇が実感されている結果となった。

「3. あなたは在学中にどのような知識・能力が向上したと思いますか（複数回答可）」の問いについて、学科別に集計した結果を図6に示した。各学科に共通する知識・能力の向上を感じている項目は国際経営学科、発酵食品学科以外では、専門知識がとなった。学科ごとに特徴的な知識・能力の向上傾向が示された。

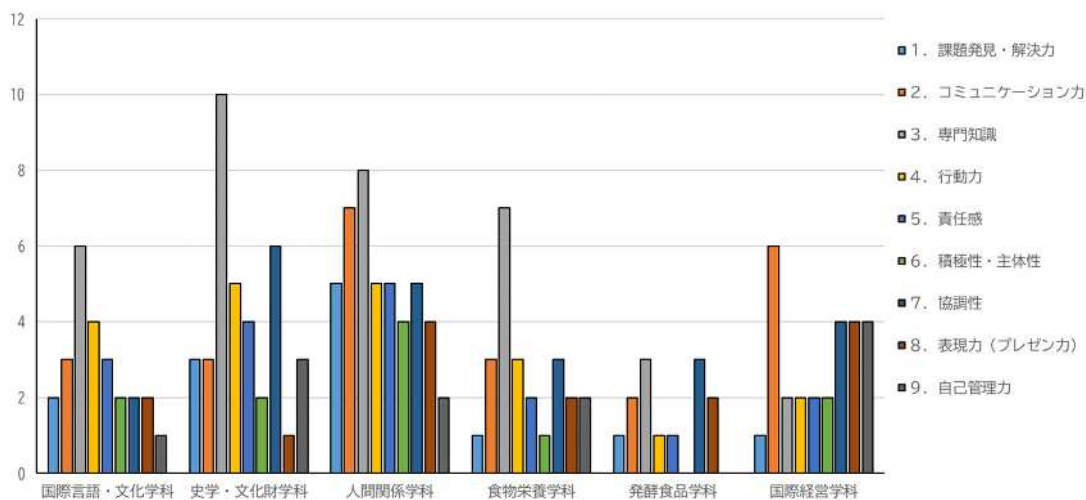


図6. 「3. あなたは在学中にどのような知識・能力が向上したと思いますか（複数回答可）」の学科別集計結果

「4. 就職してから社会人として必要と思われる能力はどのようなことですか（複数回答可）」について、全体集計の結果を図7に示した。

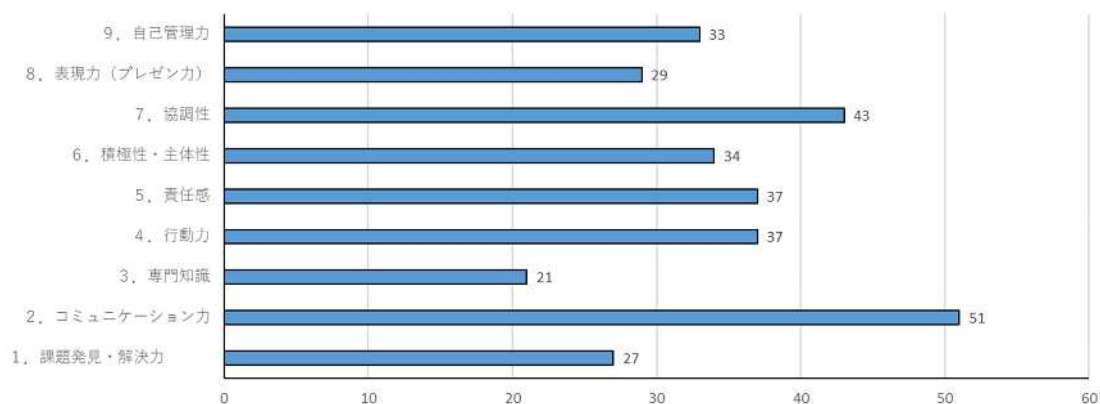


図7. 「4. 就職してから社会人として必要と思われる能力はどのようなことですか（複数回答可）」の全体集計結果

図7では、卒業生は就職してから社会で必要な能力として、コミュニケーション力を第1に挙げ、次いで協調性となっている。また、責任感や行動力が重要と考えている。

「4. 就職してから社会人として必要と思われる能力はどのようなことですか（複数回答可）」について、学科別集計結果を図8に示した。

図8においても各学科共通で、就職して社会で必要と思われる能力についてはコミュニケーション力や責任感などが挙げられた。興味深いことに、専門知識についてはどの学科も比較的低い回答となった。

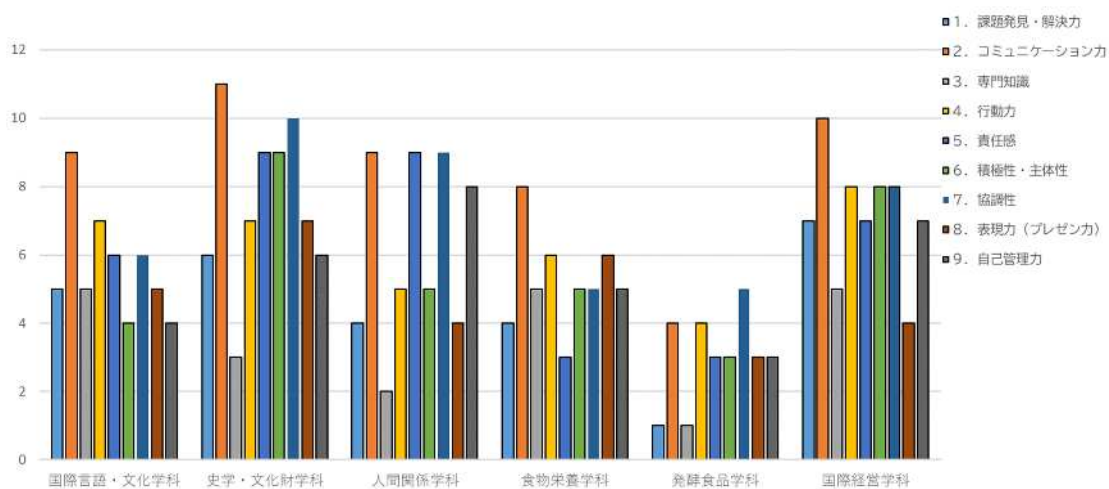


図8. 「4. 就職してから社会人として必要と思われる能力はどのようなことですか（複数回答可）」の学科別集計結果

「5. 卒業後の進路は希望に沿ったものですか」への回答を全体集計したものを図9に示した。

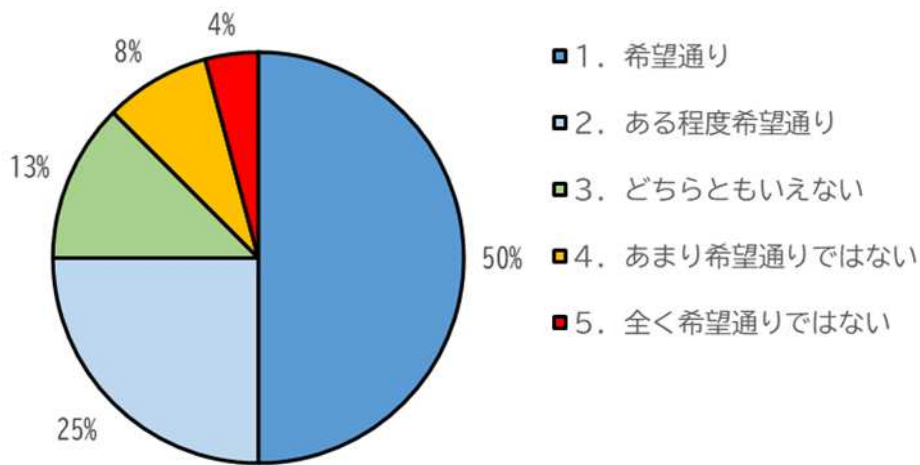


図9. 「5. 卒業後の進路は希望に沿ったものですか」の全体集計

卒業後の進路については、全体の75%の卒業生がある程度希望通りに進路を進めている一方、12%の卒業生で希望通りにはいかなかったとしている。

6. 大学での教養（人間性の形成に資する幅広い知識、技能）の学びについて（1）～（5）の観点について1. 全くそう思わない、2. そう思わない、3. そう思う、4. 強くそう思うの4択による評価を回答願った。（1）～（5）の集計結果を図10に示した。

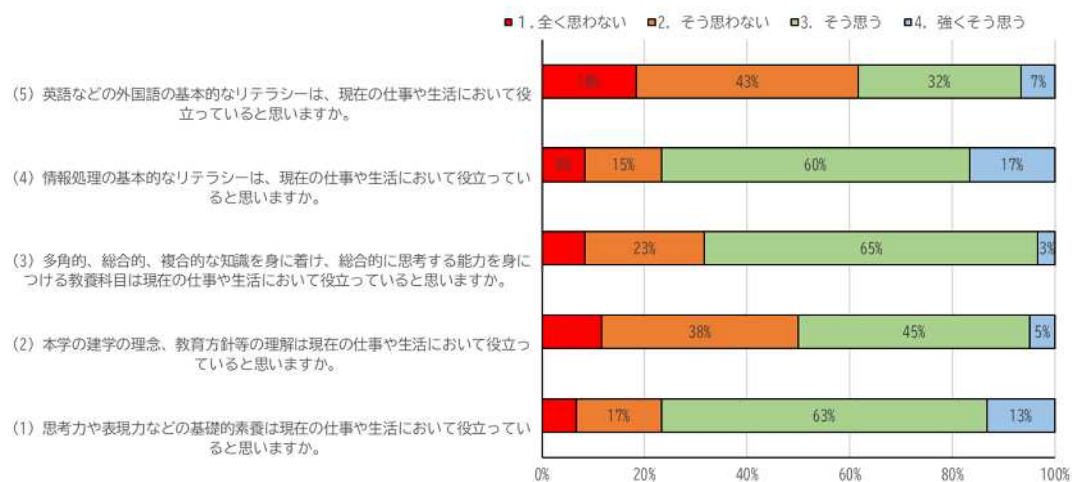


図10. 「6. 大学での教養（人間性の形成に資する幅広い知識、技能）の学びについての質問」への全体の集計

（1）思考力や表現力などの基礎的素養は現在の仕事や生活において役立っていると思いますか、という質問に対しては、1. 全く思わないが7%（4人）、2. そう思わないが17%

(10人)、3. そう思うが63% (38人)、4. 強くそう思うが13% (8人) の結果となった。

(2) 本学の建学の理念、教育方針等の理解は現在の仕事や生活において役立っていると思いますか、という質問に対しては、1. 全く思わないが12% (7人)、2. そう思わないが38% (23人)、3. そう思うが45% (27人)、4. 強くそう思うが5% (3人) の結果となった。

(3) 多角的、総合的、複合的な知識を身に着け、総合的に思考する能力を身につける教養科目は現在の仕事や生活において役立っていると思いますか、という質問に対しては、1. 全く思わないが8% (5人)、2. そう思わないが23% (14人)、3. そう思うが65% (39人)、4. 強くそう思うが3% (2人) の結果となった。

(4) 多角的、総合的、複合的な知識を身に着け、総合的に思考する能力を身につける教養科目は現在の仕事や生活において役立っていると思いますか、という質問に対しては、1. 全く思わないが8% (5人)、2. そう思わないが15% (9人)、3. そう思うが60% (36人)、4. 強くそう思うが17% (10人) の結果となった。

(5) 英語などの外国語の基本的なリテラシーは、現在の仕事や生活において役立っていると思いますか、という質問に対しては、1. 全く思わないが18% (11人)、2. そう思わないが43% (26人)、3. そう思うが32% (19人)、4. 強くそう思うが7% (4人) の結果となった。

7. 専門力 (専門に関する基本的な知識、技能) の学びについて (1)、(2) の観点について1. 全くそう思わない、2. そう思わない、3. そう思う、4. 強くそう思う、の4択による評価を回答願った。(1)、(2) の集計結果を図11に示した。

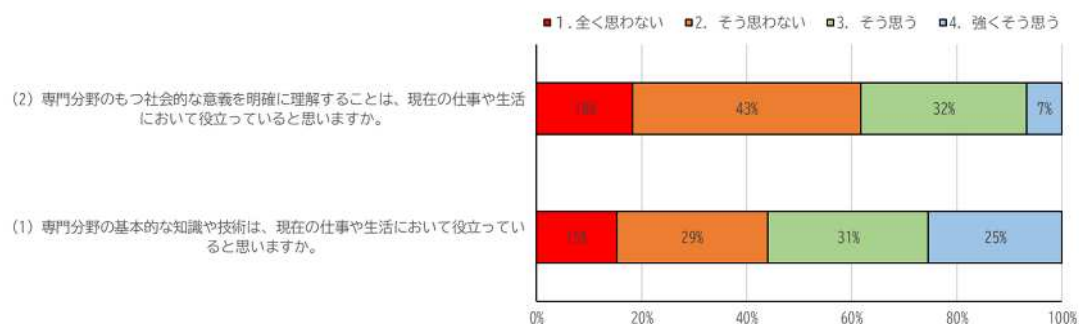


図11. 「7. 専門力 (専門に関する基本的な知識、技能) の学びについての質問」への全体集計

(1) 専門分野の基本的な知識や技術は、現在の仕事や生活において役立っていると思いますか、という質問に対しては、1. 全く思わないが15% (9人)、2. そう思わないが29% (17人)、3. そう思うが31% (18人)、4. 強くそう思うが25% (15人) の結果となった。



(2) 専門分野のもつ社会的な意義を明確に理解することは、現在の仕事や生活において役立っていると思いますか、という質問に対しては、1. 全く思わないが18% (11人)、2. そう思わないが43% (26人)、3. そう思うが32% (19人)、4. 強くそう思うが7% (4人) の結果となった。

8. 汎用力 (社会で活用できる汎用性のある能力) の学びについて (1) ~ (5) の観点について1. 全く思わない、2. そう思わない、3. そう思う、4. 強くそう思う、の4択による評価を回答願った。

汎用力の観点は、

(1) 大学で身に着けた論理的に考え分析する能力、常に自らの学びを省察し課題を見つけて改善することができる能力 (判断力、創造力、企画力などを含む) は、現在の仕事や生活において役立っていると思いますか。

(2) 大学で身に着けた組織での活動においてリーダーシップを発揮するとともに、他者と協調しながら目標を達成する力 (主体性、協働力、傾聴力などを含む) は、現在の仕事や生活において役立っていると思いますか。

(3) 大学で身に着けた自分の考えを的確かつ巧みに文章或いは口頭で表現する力は、現在の仕事や生活において役立っていると思いますか。

(4) 大学で身に着けた場面にふさわしい言葉遣いやマナーや振る舞いを身につけるとともに、豊かなコミュニケーション力は、現在の仕事や生活において役立っていると思いますか。

(5) 大学で身に着けた我が国のみならず国際的な動向や問題に幅広い関心をもち、図書やICT機器を用いて必要な情報を収集できる力 (情報収集・分析力、PCスキルなどを含む) は、現在の仕事や生活において役立っていると思いますか。

として、(1) ~ (5) の集計結果を図12に示した。

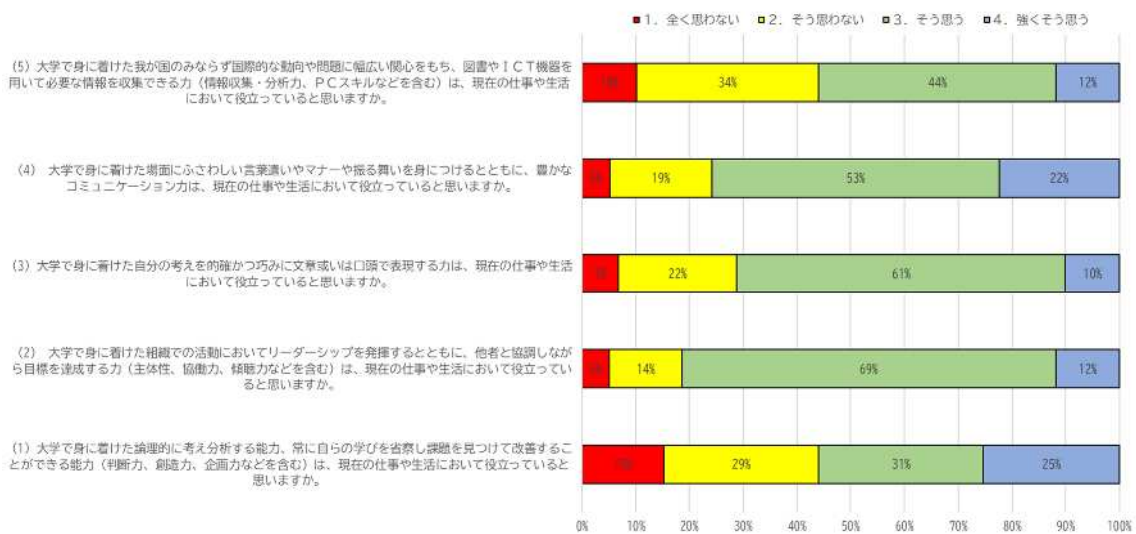


図12. 8. 汎用力（社会で活用できる汎用性のある能力）の学びについて

(1) 大学で身に着けた論理的に考え分析する能力、常に自らの学びを省察し課題を見つけて改善することができる能力（判断力、創造力、企画力などを含む）が、現在の仕事や生活において役立っていると思いますかについては1. 全く思わないが15%（9人）、2. そう思わないが29%（17人）、3. そう思うが31%（18人）、4. 強くそう思うが25%（15人）の結果となった。

(2) 大学で身に着けた組織での活動においてリーダーシップを発揮するとともに、他者と協調しながら目標を達成する力（主体性、協働性、傾聴力などを含む）は、現在の仕事や生活において役立っていると思いますか、については1. 全く思わないが5%（3人）、2. そう思わないが14%（8人）、3. そう思うが69%（41人）、4. 強くそう思うが12%（7人）の結果となった。

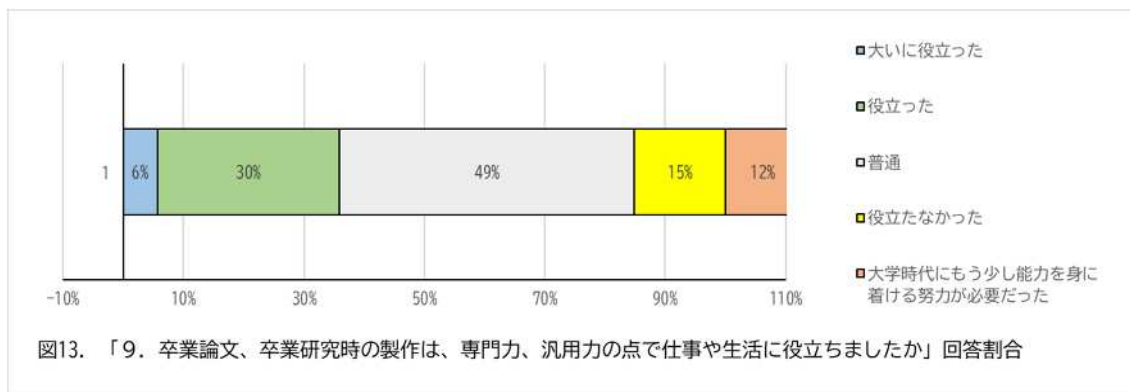
(3) 大学で身に着けた自分の考えを的確かつ巧みに文章或いは口頭で表現する力は、現在の仕事や生活において役立っていると思いますか、については1. 全く思わないが7%（4人）、2. そう思わないが22%（13人）、3. そう思うが61%（36人）、4. 強くそう思うが10%（6人）の結果となった。

(4) 大学で身に着けた場面にふさわしい言葉遣いやマナーや振る舞いを身につけるとともに、豊かなコミュニケーション力は、現在の仕事や生活において役立っていると思いますか、については1. 全く思わないが5%（3人）、2. そう思わないが19%（11人）、3. そう思うが53%（31人）、4. 強くそう思うが22%（13人）の結果となった。

(5) 大学で身に着けた我が国のみならず国際的な動向や問題に幅広い関心を持ち、図書やICT機器を用いて必要な情報を収集できる力（情報収集・分析力、PCスキルなどを含む）は、現在の仕事や生活において役立っていると思いますか、については1. 全く思わないが10%（6人）、2. そう思わないが34%（20人）、3. そう思うが44%（26人）、

4. 強くそう思うが 12% (7人) の結果となった。

9. 卒業論文、卒業研究時の製作は、専門力、汎用力の点で仕事や生活に役立てられたか、については、①大いに役立ったが 6% (3人)、②役立ったが 30% (16人)、③普通が 49% (26人)、④役立たなかったが 15% (8人)、⑤大学時代にもう少し能力を身に着ける努力が必要だったが 12% (7人) であった (図 13)。



10. あなたが在学中に「じぶんが成長できた」、と思う経験に関する自由記述については資料として、各学科別の学生の成長できたと考える記載を原文のまま掲載している。

傾向として、今回の卒業生アンケートの回答した卒業生の多くは、大学生という時間の中で、それぞれに自己の変化について、文章化できる内容をもって実感できていることが理解できる。

## 考 察

令和元年度のアンケートは2014年～2018年卒業の5年間の卒業生、1,861名を対象に実施した。回答数は62件（うち2件は不完全標本）であった。回答率は3%と極めて低いレベルにとどまった。卒業生アンケートの実施について、在学中からの情報伝達や、卒業後の連絡方法の確立など、今後、少なくとも1割程度の回収が見込めるよう検討を続けていく必要があるものと考ええる。

一方で、2018年度、2017年度と同程度の回答数を維持した史学・文化財学科の卒業生との連携に着目し、他の学科においても、卒業後、継続的に卒業生との連絡を維持できるよう体制を作る必要があるように考えている。

「1. あなたは別府大学で学んだことに満足していますか」の問いについて、各6学科における学びの満足度ではおおむねすべての学科で、普通まででとどまる傾向があった。国際言語・文化学科、食物栄養学科、国際経営学科においてわずかながら満足できていないとする回答が見られた。大変満足している、満足しているまでの比率では、人間関係学科、次いで発酵食品学科、史学・文化財学科、食物栄養学科の順となっており、アンケートの回答いただいた多くの卒業生は、少なからず満足をしていると考えられる。

卒業生の選択した「別府大学で学んでよかったところ」として、資格の取得が特に多くの卒業生からの選択項目となった。またそれについて、授業の内容やゼミなどが選ばれ、次には友人作りが選ばれた。これは大学の教育の要素の一つである資格が、卒業生にとって魅力であったことを意味する。学科別でみると、多くの学科で資格取得が挙げられているものの、学生は比較的多様な大学との関わりを持って存在することがわかる。

在学中の知識・能力の向上についても、専門知識、コミュニケーション能力、協調性など卒業生は正課内外での交流から人間的成長を見せている。

この知識・能力を学科別にまとめてみることで、学科において重要視している能力の育成がそれぞれに存在しているようであり、またこれが卒業生により反映されることはあくまでも、卒業生の主観的な指標であるが、カリキュラム・ポリシーからディプロマ・ポリシーへの反映として卒業生に定着していると考えられることもできる。

就職してから必要となる能力では例年通り、コミュニケーション能力が一番多く、次いで、協調性、また、責任感や行動力なども挙げられている。社会への接続には従来は学生時代に涵養されたこのような能力も、今後は正課内の授業でもより、アクティブ・ラーニングへと展開するにつれ、発展するものと期待される。

卒業後の進路については、全体の75%の卒業生がある程度希望通りに進路を進めている一方、12%の卒業生で希望通りにはいかなかったとしている。少数の卒業生であるが、満足度などを充実していくために

大学での教養（人間性の形成に資する幅広い知識、技能）の学びについては思考力や表現力、ICTリテラシーなどに対する重要性の理解が十分である一方で、英語や建学の精神な

ど、まだまだ学生からも実社会での応用の困難さが明示されている。

専門力では、卒業生たちは大学の専門知識などの力を十分に重要視してくれているにもかかわらず、社会への利用がうまくいっていないように見受けられる。この点では、アンケートに、職場や職域、資格活用などの環境確認の項目が追加される必要があるかもしれない。

卒業論文に関する記述は、アンケートの様々な部分で散見された。職場で役に立つか否かは、勤務早紀や職務内容により、活かせるかどうかが決まるため、もう少し職業についても詳細が必要であると同時に、より汎用的な活用まで、専門力を高めていく必要があるように考える。

自己の成長のきっかけに関する記述は、個別の授業自体に関わる内容からゼミや正課外の活動など多岐にわたり、一元的な内容としてないことが示された。全体を俯瞰して感じられることは、個人が大学という時間に対して、それまで以上に多様な目的に対して熱心に取り組んだこと、またその取り組みには教職員や友人、また実習先などにおける様々な人々とかかわりの存在があるように見える

これは本学の、学生に対する個人の人格に対する丁寧な関係作りは、確かに卒業時までの学生の自己成長観ともつながっているようである。

令和元年度の卒業生アンケートから、卒業生からの回答は本学の教育の今と、社会での汎用性を見る良い情報となりうると考える。より適格な学部学科内での能力の育成を行うためにも重要である。今後のアンケートに備えて、卒業生をどのように把握していくことが可能か、また今回は5年間を期間の目安としたが、さらに長期にわたる大学の教育の評価が可能であるか、検討していきたい。

資料

「10. あなたが在学中に「じぶんが成長できた」、と思う経験を教えてください（自由記述）」

**【国際言語・文化学科】**

私が在学中に最も「じぶんが成長できた」と思った経験は、生涯学習論で小学校に行き子どもたちと共に授業を行ったことです。自分が行き慣れない場所かつ周りには殆ど話したことのない人達だけ。こういう時に必要になってくるのがコミュニケーション能力です。私はあまりコミュニケーション能力が高い人間ではありませんでしたが、この講義のおかげで苦手と向き合うことができ、ある程度改善することが出来ました。個人的な意見ですが、コミュニケーション能力は就職してから一番最初に求められる能力だと思います。そのため在学生の方々やこれから入学する学生の方々にもこの講義やインターンシップ等、コミュニケーション能力を求められる活動をどんどん行っていただければと思います。深く学ぼうとする姿勢。

教職課程での教育実習や教職の授業

アナログしか使用したことがなかったが、大学でデジタル作業を学べたので今の仕事に役立っている。

1日をどれだけ充実させるか、考える力が身に付いた。

人生の中で大学が最も自分から意欲的に学業に取り組んだ。

**【史学・文化財学科】**

卒業論文を書ききれたこと。

“私は在学中に旧ファンヴィレッジ寮に4年間お世話になり、入学当時協調性に欠けていたため、相部屋の人と上手くいかずに3日間口をきかなかった事がありました。その経験から協調性やコミュニケーションの大切さを強く感じ、自分の言動を見直す大きなきっかけとなりました。そういった点で自分が成長出来た経験であると思います。

問いにはあまり関係ありませんが、アンケート等お疲れ様です。どうぞお疲れの出来ないようにしてください。”

サークル等で同世代だけでなく、年代の違う相手とも交流することで幅広い人間関係を築くことが出来たこと。コミュニケーション能力を培うことが出来たこと。

**【人間関係学科】**

心の病気と闘いながら過ごした4年間でしたが、自分一人では何もできない問題もあることが理解できました。私は大学生の3年生と4年生の時に人間関係学科の孔先生のゼミに所属していました。たくさんの人に迷惑をかけ続け、毎日泣いて過ごしていました。しかし、それでも負けず最後まで大学の学生として努力してきたつもりです。現在介護の事業

所に就職も果たし、職場では怒鳴られてばかりですが、少しずつ評価され前へ進んでいます。これは、間違いなく福祉の勉強が身についた成果だと感じています。この素晴らしい別府大学は自分のレベルに合った大学だったと思います。感謝しながら自分が成長できた連続の4年間でした。ありがとうございます。

グループワークの授業を通し、自分が苦手とする「自分の考えを他人に伝える力」が身に付いたと思う。

社会福祉士の夏実習に行った時に、患者さんと生活のことについて考える時間があった。今は、その当時の経験があったからこそ、利用者さんの在宅復帰の支援について、その人の生活のことを考えながらインテーク、アセスメントができていないかと思う。卒業論文作成や通常の授業のディスカッションの中で、自分の考えを整理して表現する力を身につけられたこと。

“サークルにおける活動において人と協力すること。

大学に入ったことで色々な考え方、世界があることが分かり、視野が広がった。

いろいろな人や考えに触れることで、自分の中に吸収することが出来た。

別府大学での経験が今の仕事に生きている。”

心理学のカウンセリング講義と脳科学の講義の経験をしたこと。ホルモンの分泌関係等を学び理解できたため、様々な性格の人達と好き嫌い関係なく客観視できるようになり、コミュニケーション能力が上がったこと。

実家から大学までの通いにおいて、時間を考えながら行動できた。

分からない

友人、知人の話に耳を傾け、一方的な意見をそれまでは言ってきたが、大学で過ごす中、講義で学んだ事を日常に使うことができ、相手の意見を聞き受け止めた上で自分の意見も言えるようになった

義務教育や高等学校では「集団同調」の無意識にとらわれていて、他者と同じでなければいけない（こうでなければ社会のルールから外れる）という半ば強迫観念じみたものがありました。大学在学中に自分という人間の在り方や個性、気質、好きな事や嫌いな事など、様々なことを本当の意味で知る事ができ、新しいけど本当の自分へ成長する事ができました。在学中に様々な人や友人に出会い恵まれた事や、勉学を通じていくなかで答えを得る事もありました。おかげで今とても人生そのものが楽しいです。

#### 【食物栄養学科】

“進学したことを後悔している、資格取得しなければよかった、全く必要ない”

“アルバイトで社会人として働く際の知識やマナーを学ぶことができた。

また、大学では、湯けむり健康教室や研究室の活動など地域の方々と関わることで主体性や、コミュニケーション能力など様々なことが学べた。”

コミュニケーション能力

管理栄養士国家試験合格とゼミ活動

サークル活動・研究室でやりたいことができたこと

【発酵食品学科】

石垣祭実行委員

“先生に対する感謝ができた(藤原先生)”

【国際経営学科】

皮肉が上手になったことです

資格取得。

色々なことに関して積極的になれました！

私が成長出来たと思った部分は、物事を論理的に考えるようになったことです。

学生時代に、空いた時間を利用してたくさんの本を読みました。本を読むことで、“物事の本質”について考えるようになりました。論理的思考を身につけたことで、プライベートでも仕事で役に立つ瞬間が何度もありました。そして、仕事でも日々、成長を感じています。

感謝の心が身についた